

# ネオ昭和 からむし通信

■本社 / 〒949-8522 新潟県十日町市伊達甲 236 TEL (025) 750-2857 FAX (025) 750-2858  
 http://www.karamushi.jp/ E-mail cfy49400@nyc.odn.ne.jp 発行人/村山好明  
 ■上越事務所 / 〒943-0804 新潟県上越市新光町 2-7-20 TEL080-5225-3318 (所長: 米山康久)

第4号 〈お客様の巻〉  
 発行/2008年10月1日

## からむしとの出会い

森木キミ子さん (埼玉県)

ある日新聞紙上で「織姫募集」と「からむしまつり」の広告を見た。すでに呉服販売の仕事は辞めていたものの、織物には興味があり、行ってみたいと思った。同じ職場で働いた友人を誘い、和らぎ体操教室を主宰するSさんの運転で出掛けた。

福島県大沼郡昭和村へは会津田島から入ったと思うが、山道は細く出会う車もなく、緑濃い山々は美しいものの、かなり不安になって来た時、ようやく村の姿が見えてホッとした。



上越市竹原旅館の展示会で 大橋美恵子さんの芋引き実演

仕事柄、昭和村の存在とかからむし織の名前は知っていたが、本物のからむしやからむし織に触れるのは初めてだった。イベント会場で催されている芋引きか

ら糸作り、織りまでを見学し、製品展示室では自由に写真を撮らせて頂いた上、高価なからむし織の逸品を羽織らせて頂いた。まるで蜻蛉の羽のような薄さで、手に乗せてもその重みを感じさせないのには驚いた。絹にも勝る肌触りの良さとしなやかさには、その技量には圧倒された。

Sさんは別な視点でからむしに興味を寄せていた。自然素材の衣料の中でもからむしが身体に与える癒し効果は非常に高く、その歴史は縄文時代まで遡れることから、その検証の旅だったようだ。

職場を辞めてから家庭菜園作りを始めた私は、毛虫や芋虫に魅力を感じて写真を撮っていたが、その中に一際惹きつける子がいた。彼らはそれぞれに棲み分けているので木や草によってそこにいる毛虫や芋虫が違う。

この魅力ある子に初めて出会ったのが埼玉県児玉郡神川町の金讃(カナサナ)神社の杜で、地面を急ぎ足で移動していたので、どこまで行くのか追って行くと、石垣の隙間に生え出した植物に辿り着いた。見



国際トータルファッション専門学校ファッションショーのからむしパンツ

るところには彼の仲間が沢山居ると、植物の命を食んでいた。

その植物は私の身近にもあるのに「草」と言うだけで名前も知らなかったが、後日それがからむしであると知った。それからはその毛虫を「からむしむし」と呼んでいとおしんでいる。

からむしのことを聞いていたSさんの体操教室の会員さんが、十日町の旅行土産として(有)ネオ昭和製の靴下を持って来られた。Sさんが手紙でコメントをすると、社長が早速訪ねて来られた熱心さには驚きもしたが、その製品を会員さん

に紹介すると評判が良く、平成16年から始まったご縁は今も続いている。普段は肌着・靴下・寝具などからむし製品を使っているせいか、仕方なくナイロンストッキングや化繊のスリップ・服などを着た時の肌合の悪さは言いようもない。衣料品は使ってみないと分からない部分が多いので、時折意見など申しあげると、対応策をすぐに講じられる熱意には敬服する。

一度は廃れたからむし製品を現代の衣料として蘇らせる努力を日々重ねているその姿勢は「からむしは雪国の心」そのものであるように思える。



ごあんない

いま、注目のからむしを使用した商品・製品がどんどん増えています。

●からむし羊羹(新発売)  
 上越市 大杉屋さんにて

●からむしマイ箸セット  
 好評販売中!  
 上越市 料理研究家  
 井部真理さん監修

●ジャンボからむし手ぬぐい  
 ご注文承り中!  
 (幅36センチ×長さ100センチ)

価格はご相談下さい。

※今後の商品展開に乞うご期待!

## 植物図鑑でみる からむしの名前

植物図鑑で植物の名前を調べると、たいていはカタカナで書いてあります。「からむし」と書いてあるだけだと、「絡むし」なのか、「穀虫」なのか、本来こめられた意味がなかなか想像できません。でも、ちよつと気の利いた植物図鑑なら漢字名も併記され、これにちなんで名前の由来まで説明されています。「からむしは漢字で『茎蒸』と書き、茎を蒸して繊維を取り出して利用された」とか。でも、この『茎蒸』説は実は「うそ」かもしれないのです!?

たしかにコウゾ(楮)やクズ(葛)等から繊維を採取する場合は、採集した植物を「蒸す」



## からむしは『茎蒸』か？

池竹 則夫 さん (東京都)

か「茹でる」工程がありますが、からむし布を唯一生産販売している(有)ネオ昭和の村山さんに伺ったところ、からむしの繊維を採取する過程では火を使わないのです。

### 本 当 の か ら む し の 語 源 は ？

「和芋(からむし)ホームページ」  
HYPERLINK "http://www.karamushi.jp/index.html" http://www.karamushi.jp/index.html

からむしの名の由来について、「から」は韓国の古代王朝である加羅を意味し、「むし」は朝鮮語の mosi(苧)の転用…とあります。もしかしたら多くの植物図鑑の記載が間違っているのかもしれない。インター

## からむし繊維製品



日本で一番大きい手ぬぐい……1.260円(色は赤・紫・黒・紺)  
インテリアとして額に入れたり、テーブルセンターとして使用できます。



からむしボディタオル  
……1.260円  
寒い冬、お肌に優しいタオルです。

からむしレッグウォーマー

……(女性) 3.150円

今、大人気です。冷え性の方にお奨めです。夏はアームカバーとして使用できます。



からむし靴下(男女) ……1.050円  
冬はもう1枚重ねて履くと暖かさが増します。アレルギー体質の方にぴったります。



ネットが普及し、地球の裏側の情報でさえ一瞬のうちに茶の間のパソコンでアクセスできるような、とつても便利な時代に私たちは生きています。しかしその一方で、あまりに情報の伝達、引用が錯綜しすぎて、何が本当なのか、分からなくなってしまうっている面もありそうです。

日本の本州以南に広く分布するからむしは、有史以前に植物繊維を採取するため大陸から持ち込んだものだとわかっていいます。もしかしたら新潟、福島以外のどこかで、茎を蒸して繊維をとっていた地方があったかもしれません。でも僕がネットで

調べた範囲では、実際に茎を蒸してからむしの繊維を採取していた事実が記載されたものは見当たりませんでした。

私たちが衣類の原料はどこから来ているの？

ところで、我々の着ている衣服のほとんどは化学繊維(原料は石油)で、一部天然繊維もありますが、どこの国でどのようなように生産されたかまづ知ることができません。石油にしても天然繊維にしても、そのほとんどは、はるか遠い異国からはるばる重油を使って沢山のCO<sub>2</sub>を放出しながら船で運ばれてきたものであることに違いないのです。

## もっと見直したい からむし繊維製品

こうした点、からむし繊維製品は、地元で栽培され、地元の伝統技術で作られている、いわば「素性の知れた」素材でできています。しかも少なくともこちらで生産するからむし繊維は製造工程で火も使わないという、輸送・生産の両工程でとても環境にやさしい素材です。その優れた通気性・吸湿性・耐久性についてはいまさら言うまでもありません。このいいことづくめのからむし製品をこれからもっともっと活用していきたいと思えます。